

氏名	河内 春香
ヨミガナ	カワチ ハルカ
学位の種類	博士（音楽学）
学位記番号	博第4号
学位授与年月日	平成29年10月23日
学位論文題目	モダンダンス作品《日本の太鼓》「鹿踊り」——舞踊と音楽の 分析的研究——
博士論文審査委員会	(主査) 教授 武石 みどり (音楽学) (副査) 教授 加藤 富美子 (音楽教育学) (副査) 准教授 福田 裕美 (音楽教育学) (副査) 准教授 藤田 茂 (音楽学) (副査) 桑原 和美 (舞踊学) (就実大学教授)

## 審査結果の要旨

### 1. 博士論文審査委員会

日 時	平成 29 年 7 月 29 日 (土) 15 時 00 分～17 時 30 分
場 所	東京音楽大学 A301
判 定	合格 但し序論・結論・要旨の一部に修正を入れること
審査結果の要旨	<p>本論文は、《日本の太鼓》「鹿踊り」における舞踊と音楽の分析的研究を試みたものである。これまで音楽研究としてほとんど手つかずであった日本人作曲家による舞踊音楽を対象にしている点、さらに近年舞踊が再現された作品を対象としている点で、研究対象選定の着眼点にすぐれている。また、従来は舞踊学と音楽学で別々にアプローチされていた舞踊音楽に両方の側面から分析的研究を行い、詳細な分析記述とともにその方法を提示した点でも高く評価できる。</p> <p>舞踊と音楽という二分野の接点を研究対象とするため、序論においては舞踊家と作曲家の両面に目を配りながら研究史をまとめ、日本のモダンダンス史を 4 期に分けて捉え、《日本の太鼓》「鹿踊り」の位置づけを明確にした。また第 2 章では、上演記録・楽譜・音源・映像について現存資料を整理し、資料評価を行って分析に用いる素材を確定した。この作業は舞踊学と音楽学の両分野において意義のあるものである。さらに資料評価に基づいてパート譜から校訂スコアを作成し、校訂報告と共に論文の付録としたことには学術的に大きな意義が認められる。第 3 章では舞踊と音楽の両面から分析した結果を緻密な対応表の形で記述した。これは今後、分野横断的にさらなる議論を行う際に基礎資料となりうるものである。</p> <p>このように、本論文は、創作舞踊における舞踊と音楽の分析的研究という未知の研究分野での分析方法の提示として重要な意味を持つものであり、学術論文として高く評価できる。したがって、博士（音楽）の学位を授与するにふさわしいものと判断する。</p> <p>尚、誤字・脱字を含め、序論・結論・要旨において微細な修正を要する箇所があるため、指導教員の指示に従って修正を入れたものを最終稿として提出することとする。</p>

以上